

第16回浦和区区民会議 議事録（確定版）

1 日 時：平成19年3月17日（土） 14:00～16:00

2 会 場：さいたま市民会館うらわ 503 会議室

3 出席者（敬称略）

団体推薦：新井幸芳（青少年育成さいたま市民会議）、大関豊壽（浦和歯科医師会）、小原茂（浦和区自治会）、柿塚一二三（浦和区民生・児童委員協議会）、坂場きみ（地区社会福祉協議会）、坂本和哉（浦和区自治会連合会）、大工原潤（元市民懇話会）、中島昌男（さいたま市薬剤師会）、東一邦（さいたま NPO センター）、藤倉幸親（さいたま商工会議所）、吉野勝則（さいたま市 PTA 協議会浦和区連合会）

公募委員：樫田範子、岡野昭夫、鈴木隆吉、山本信子

コミュニティ会議委員：秋山忠一（北浦和総合型地域スポーツ・レクリエーションクラブをつくる会）、岡田唯文（コミュニティキャンパス浦和）、丸山繁子（さいたま市リサイクル女性会議・浦和）、吉岡基代（浦和区四星会）、渡辺修（中山道浦和宿二七の市実行委員会）

浦和区長：木内一好

事務局：小泉俊一（副区長）、新藤茂（区民生活部長）、礮部弘（健康福祉部長）、野村宏（区民生活部コミュニティ課長）、日野徹（同課長補佐）、金子秀行（同主幹）、吉田博昭（同副主幹）、大嶋幸子、小宮慶太（同主任）、池田麻美子、竹村真（同主事）

運営補助：福田律子（システム科学コンサルタンツ㈱）

4 次第

- 1 開会
- 2 議事
 - (1)各部会からの報告について
 - (2)その他
- 3 事務局からの報告事項
- 4 閉会

5 内容

□議事□

（1）各部会からの報告について

1) 広報部会

（活動報告書について）

- ・平成19年度の活動報告書は例年とほぼ同様の構成となっている。
- ・「I」として「浦和区区民会議の概要」をおき、第1章で区民会議の目的や今年度の活動テ

ーマを紹介している。今年度は、「区民のつどい検討部会」が設置されたので、その点を第1章「2 運営の特色と新たな部会の設置」のなかで強調するようにした。第2章は活動経過である。

- ・「Ⅱ」として「活動の概要」をおき、各部会や全体会で検討してきた内容をまとめた。第1章「区から提案された諸課題についての検討」の「1 まちづくり推進事業費について」は全体会で検討したもの、「2 浦和区コミュニティ会議とその支援策のあり方について」は運営部会で検討したもの、「3 浦和区魅力あるまちづくり推進プランの実現化方策について」は企画部会で検討したものである。また、今年度、区民会議委員も参加して作成した文化の小径マップのことを「4」に、そして最後に、「5」として新しい部会で検討しました『「区民のつどい」のあり方について」を掲載した。
- ・第2章「市から提案された諸課題についての検討」では、「都市景観形成基本計画浦和区ビジョン」についての意見を述べたことをまとめた。これは企画部会が中心となって検討したものである。
- ・第3章「広報活動の実施」では、広報部会が中心となって進めた広報活動についてまとめた。まず、先だって行った交流会も含めた「コミュニティの広場」、次に、「区民会議・コミュニティ会議の広報用冊子等の作成」として区民会議だよりやコミュニティ会議のリーフレットについて掲載した。毎年、大工原委員を中心に作成していただいた展示パネルのことも、今年度はきちんと報告書のなかに項目を立てて紹介した。
- ・第4章は、昨年11月の大倉山商店街の視察についての内容である。

・「Ⅲ」は、「市政に対する要望」で、企画部会が検討してきたものである。第1章は昨年度の要望と、それに対する市の回答を、第2章が今年度の要望となっている。

- ・活動報告書の最後には、例年どおり「1年の活動を振り返って」を設けた。今年度で任期満了となる方も多いため、いろいろな感想をいただけたと思う。
- ・巻末には、参考資料としまして、「区民会議だより」を創刊号から3号まで、全部の頁を載せて、次期の参考にしていただくことにした。

- ・最後に、表紙については、今年度は、白地に赤い浦和区区民会議のマークをあしらったものにするようにした。経費的にもそのほうが安価だそうである。
- ・報告書完成までのスケジュールであるが、月末に開催される二七の市での「コミュニティの広場」の報告を盛り込まねばならないので、残りの作業については、会長と部会長、それから事務局とで調整して進めたい。

(浦和区コミュニティの広場について)

- ・2月17日の「コミュニティの広場交流発表会」には、コミュニティ会議登録32団体のうちの25団体と区民会議委員、区長をはじめ事務局の皆さん、あわせて80人の出席があった。参加するコミュニティ会議の団体数も、参加者数も、年々増えていて、よかったと思う。
- ・今年度は、交流会の進め方を一新し、これまでのインタビュー形式をやめて、テーブルマ

ネージャーが話し合いを進めるようにした。先日の部会では、この形式は交流が深まってよかったので、来年度以降、しばらくこの形で進めるのがよいという意見で一致した。一方、反省点としては、進行方法や話し合いのテーマについて、テーブルマネージャーの方々との打ち合わせを、もっといねいにやっておくとよかったとも感じた。こうした点も含めて、お手元の活動報告書（案）にまとめている。

- ・3月24日に開催される二七の市での広報啓発事業では、例年の「くじ引き大会」があまり芳しくなかったのをやめて、今年度は、坂本会長のご配慮を頂いて「チャリティ綿あめ」をすることにした。瀬ヶ崎自治会の機械と技術者も来てくださるとのことで、50円で販売し、収益は二七の市が参加するチャリティに寄付する。
- ・区民会議のブースの位置は、今年は市場通りでなく、ステージ脇となった。テント4張りを借り、区民会議のロゴ入りジャンパーを着て、区民会議ののぼり旗を立てて、区民会議・コミュニティ会議のリーフレットの配布やパネルの展示といったところは例年どおりである。パネルについては、大工原委員が中心となって、古くなったパネルの更新、新しく認定された団体の作成を進めている。
- ・当日は、9時にブースに集合である。皆様のご協力を宜しく願います。

(浦和区コミュニティの広場で配布するコミュニティ会議紹介パンフについて)

- ・お手元に配布したのは、二七の市で配布するコミュニティ会議紹介パンフレットの最新の原稿である。毎年、作成しており、昨年度からの変更点は、写真入りで活動紹介する団体を、平成19年度の新規登録団体を中心に差し替えたこと、浦和区区民会議のマークを紙面に大きくレイアウトしたことの2点である。

(浦和区コミュニティの広場で掲示するパネルについて)

- ・今年度の新規登録団体と、既存登録団体のなかで活動内容に変更、追加などがあったものについて、パネルを新たに作成する。具体的には、浦和区四星会、北浦和いい(e)街づくり推進委員会、アシスト浦和21、コミュニティキャンパス浦和、紙こぼこ、いきいき浦和区推進会議、岸町小学校地区サタデーサポートを推進する会、上木崎・大原グリーンコミュニティ、影絵グループ『花』の9団体である。これから各団体に見ていただき、ご意見、ご要望をきいて修正、完成させることになっている。

(意見交換)

会長：今の報告に対して、ご意見、ご質問は。

委員：2月にあった交流発表会のテーブルごとのフリーディスカッションは、報告にもあったが、とてもよかったと感じた。私がついたテーブルは、たまたま積極的な方が多かったのかもしれないが、活発な意見交換ができたし、他のテーブルでも活発であったように見受けられた。統一テーマを設けるよりも、自由なテーマで進めるほうが議論は進むかもしれない。

委員：リーフレットのことだが、現在の紙面では団体の名称のみの紹介になっているが、名

前からでは活動内容がイメージしにくい団体もあるので、活動内容を紹介する文章があるとよいと思う。

委員：なにか、工夫してみたい。

委員：同じくリーフレットのことだが、「あなたも『浦和区コミュニティ会議』を作ってまちづくりのための活動をはじめませんか」という表現は、今さら言っても仕方のないこととはいえ、やはり、違和感がある。「会議」をつくって「まちづくり活動」というのがしっくりこない。

会長：しっくりこないのはよくわかる。会議という名称がなじまないということは、第1期の当初からずっと言ってきたことだが、市が考えた名称だから仕方ないところでもある。種々ご意見をいただき、ありがとうございます。今月24日には二七の市で広報啓発事業があるので、皆さん、お揃いで参加いただきたい。

2) 運営部会

- ・運営部会は、コミュニティ会議のあり方や支援策を検討するのが役割で、第2期ではいろいろな問題点を話しあってきたが、活動報告をまとめるにあたっては、論点を3つに絞って提案することにした。活動報告書のⅡの第1章2の「〔4〕平成18年度における検討テーマと提案」のところで、今年度の検討結果をまとめている。
- ・論点の①は、公募委員の任期のあり方についてで、やっと活動になれたところで交代というのはもったいないという背景もあって、現状では、公募委員が1期ごとに交代となっている点をどう考えるか、というテーマであったが、結論として、現職の公募委員が次の2年の就任を希望する場合は、改めて募集に応募することで道は開けること、広く区民に機会を提供する、あるいは、区民会議にとっても、いい人材を迎える機会を確保するという点からも、2年ごとに5名の公募委員を募集、選任することが妥当と判断した。この点は、事務局も同じ考えで、すでに次期委員5人を選任しておられる。
- ・論点の②は、「コミュニティ会議支援協力団体」(仮称)についてであり、今年度の提案としては、これが一番「核」になるものだと考えている。これまで、コミュニティ会議に対する支援策として、補助金以外にも何かが必要という意見がだされていた。運営部会でさまざまなコミュニティ会議の活動を見ていると、活動に対する協力者や、人のつながり、ネットワークが重要ということを感じる。そうしたものと、コミュニティ会議の活動もスムーズに進められるけれども、反対に、うまく得られないと、せっかくのいい活動が先細りになりかねない例がある。このような問題点の解決に役立つものとして、「コミュニティ会議支援協力団体」(仮称)を提案した。活動報告書では、支援団体の例として、医師会や歯科医師会、薬剤師会、青年会議所、PTA連合会、自治会連合会、各種青少年団体などの公益団体や区民会議経験者によるグループなどを挙げているが、そのうち、「コミュニティ会議の活動に対して、講師の派遣や助言・助力などの協力を行う意志のある団体で構成するもので、コミュニティ会議が協力者を確保したいときに、円滑に対応できるようにするとともに、コミュニティ会議の周知度向上にも貢献することを目指すもの」と紹介した。このような組織がコミュニティ会議の活動に協力することで、助成が無くなった後

も、自立的に、継続的に維持されるとよいと思うし、支援組織を構成する各団体にもコミュニティ会議を認知してもらうことにつながると考える。

- ・論点の③は、「区民のつどい検討部会の設置について」である。つどいのあり方を考える区民会議内部の検討会を立ち上げましょう、と提案したことを述べたものである。
- ・今期をもって第1期からこれまでの経緯を知る委員が全員、任期終了となることから、今回の活動報告書では、第1期も含めて、これまで運営部会がコミュニティ会議のあり方についてどういう提案を行い、その結果、どうなっているのかを記録にとどめておくほうがよいと考え、報告書の11頁からはじまる「浦和区コミュニティ会議支援のあり方についてのこれまでの提案」という項目を、活動報告書に盛り込んだ。
- ・コミュニティ会議は10区共通の制度であるが、その支援策は、浦和区が一番進んでいると感じる。区も柔軟に対応しており、コラボレーションがうまくいっていると思う。高齢化が一層進むこれからこそが、こうした自発的な活動団体に期待が集まる時代だと思うので、今後とも、コミュニティ会議のより良いあり方を、まさに、行政とのコラボレーションのもとに考えていっていただければと思う。

(意見交換)

会 長：今の報告に対して、ご意見、ご質問は。

委 員：「コミュニティ会議支援協力団体」(仮称)には、経済団体は入らないのか。各地域の商店会、商工会などはまちづくりに協力している。一方で、市レベルで構成されている商工会議所では、区民会議というのはよく知られていない面があり、区民会議委員を推薦するにも支障をきたしている。

会 長：これからの活動を考えると、経済団体は絶対に必要である。青年会議所などもある。そういう視点でうまく例示していくとよい。委員の選考も宜しく願いたい。

3) 区民のつどい検討部会

- ・前回区民会議での報告では、現在の二七の市を区民のつどいとして育てていくには、持続的、安定的に実施し、発展させる体制が整わないという問題があり、その原因と解決策の検討を行っているということ、そして、大きな方向性をまとめて今年度の報告としたいということもお伝えしたが、このたび、ひととおりのまとめをおこなった。
- ・報告書においては、二七の市を区民全体のものとして育てていくための課題と解決策として、
 - ① “二七の市” がややもすると常盤地区のまつりと考えられてしまうことから、“二七の市” に代わって、区全体の広がりを感じる名称を考える
 - ②他区とちがって、浦和区には大きな会場がないため、複数の会場を設けることで手狭さを解消するとともに、複数の会場の回遊性を持たせる工夫を行い、一体的な催しとする
 - ③地域のまつりを、区民のつどいと連動させて開催する、あるいは、地域のまつりと連

動させやすい時季につどいを開催する

- ④複数の会場を設け、それぞれの開催日を、春のつどい、秋のつどいなどと季節ごとにずらすことで、地区の方々が最寄りの会場に出店できるよう、また、地区の事情に応じて参加しやすい時季を選べるようにするとともに、賑わいの分散を防ぐ。
- ⑤テーマコミュニティの代表や、個人などが参加しやすくなるよう、実行委員会委員の一部を公募することも考えられる。

の5点をまとめた。また、これら課題の解決策のイメージとして、具体的に、名称や会場、開催日の考え方や、若者の実行委員会への参加などの提案を表にまとめた。

- ・名称としては、「浦和区区民のつどい 中山道浦和宿まつり」を1つのイメージとして提案した。中山道をつけずに「宿場まつり」という意見もあったことを書き添えている。以上が方向性である。
- ・報告書の「〔4〕実現に向けて」では、今後の検討課題として
 - ①区民会議や区民会議選出母体の団体の参画の必要性
 - ②つどいのあり方と関連したコミュニティ会議助成制度の見直しの必要性
 - ③幅広い協力体制づくりと検討組織の継続の必要性を挙げた。
- ・最後には「ここに示した提案を将来のあるべき姿として、現在のつどいの名称を「中山道浦和宿まつり」—これには、中山道という言葉のない呼称の提案もあったが一に変更し、二七の市を核としつつ、他地区の参加を促したり、文化活動団体や保健福祉活動団体など、テーマコミュニティに対する情報提供(二七の市への参加方法など)を積極的に行うなど、取り組みやすいことから始めていくことが実現の第一歩」として、提案を終えている。以上が部会での検討結果であり、今日、さらなるご意見などをいただき、成案にしたい。

(意見交換)

会 長：今の報告に対して、ご意見、ご質問は。

委 員：若者の実行委員会への参加ということが提案されているが、現在の実行委員会の年齢層はどのあたりなのか。イベントによっては若者も喜ぶだろうが、もし、現在の二七の市を若者向けにしようとする、今の二七の市をガラッと変えることになり、なかなか難しいのではないかな。

部会長：二七の市では、子どもたちが楽しめる企画を行うなど、いろいろな工夫をしている。伝えたかったのは、若い人たちに企画・立案に参加してもらうことであって、若者だけに向けたイベントにするということではない。

委 員：現在の実行委員会で抜けている年齢層を補強したいというのが、提案の趣旨だ。現状では若い感覚を持った世代がいないので、そうした世代の意見を取り入れたものにしたいたいということである。

4) 企画部会

- ・企画部会では、報告書のうち、Ⅱの第1章「3 浦和区魅力あるまちづくり推進プランの

実現化方策について」、Ⅱの第2章「1『都市景観形成基本計画浦和区ビジョン』についての意見」と、Ⅱの「第4章研修視察」、「Ⅲ市政への提案」を検討した。

- ・まず、実現化方策に関連しては、4つの検討テーマについて、どのような検討を行ったかを記した。浦和駅東口は昨年度に提案し、多くの意見を反映してもらった。防災・防犯に関連しては、放置自転車問題について勉強し、市の対応が奏功していることなどを確認したうえで、今年度の市政への提案に生かした。緑化については、景観形成基本計画浦和区ビジョンに対する意見に反映した。地域通貨については、いろいろ勉強し、大倉山商店街の視察の際にも取り組み状況をたずねたりした。地域通貨については、いろいろ問題はあろうが、今後、ボランティア活動を支える制度として、活用していくことが必要だろうと思う。
- ・企画部会が関わったものとして、文化の小径づくりについても言及した。コミュニティ会議である浦和ガイド会に大変な協力をいただき、完成したものである。
- ・景観基本計画浦和区ビジョンについては、記録を残すという観点から、検討の経緯を含めて丁寧に報告した。内容は前回報告したとおりである。
- ・視察については、市民活動支援センター、大倉山商店街、大倉山記念館・アートかれんの4つをまとめた。市民活動支援センターでは、職員の姿勢に感動したこと、商店街では、現在もシャッター商店がなく、当時の取り組みが成功していることなどを記述している。大倉山記念館は好みが分かれるところだが、魅力ある公共施設として活用されていること、アートかれんは地域にしっかり受け入れられていることや、空き店舗の活用のひとつとして参考となったことなどをまとめた。
- ・「Ⅲ 市政への提案」の内容は、ほとんどが前回報告したとおりで、一部、その後の部会で表現を調整した。以上である。

(意見交換)

会 長：今の報告に対して、ご意見、ご質問は。

委 員：区民会議は区の問題について検討する場であるが、そのなかには、**10**区共通の課題もあると思う。今日で第**2**期の会議は終わりになるが、この間、他の区の区民会議がどのような課題を検討し、市に提案したのか、一切報告はなかった。**10**区に共通する課題は、共同して提案したほうが有効であるし、横の交流があってよいと考える。

事務局：他区の区民会議の活動報告書や議事録は、各区のホームページや資料室などで見ることができるようになっている。

会 長：各区の提案書を市長に提出する会があり、その場が、**10**区区民会議が一堂に会する機会となっている。各区の様子を聞くと、区民会議の活動形態も、まちづくりの課題も区ごとの違いがあり、**10**区で統一見解をまとめて市に提案するというようなことは、現実には難しい面がある。しかし、連絡協議会のようなものがあってもよかったと思う。

委 員：「Ⅲ 市政への提案」の8項目目、東口の図書館についての提案のなかで「サラリーマン、**OL**」という表現があるが、今はあまり使われなくなっていると思う。「東京勤めの方々」といった表現で十分ではないか。

委 員：前回の会議で議事録の記名のことが承認されたが、そのことを確実に伝えていくため

に、活動報告書で言及したほうがいいのではないかと。

会長：種々ご意見いただきありがとうございます。議事録の記名に関しては、次期委員への申し送りを事務局には願います。市政に対する要望・提案については、企画部会で整理した内容で提案していきたいと思うが、いかがか。(委員から「異存なし」との声あり)

では、今回の案で確定したものとし、この場で区長に提出する。

(区長から受領にあたってのあいさつ)

- ・浦和区の魅力あるまちづくりについての貴重な提案をいただいた。各担当に伝え、対応してまいりたい。今年度と同様、夏ごろには市の担当者から回答があると考えており、その際には、皆様にご案内するので、ご出席いただければと思う。

(2) その他

事務局から次の3点の報告があった。

- ・第3期区民会議委員の選考状況であるが、まず、公募委員については、先だって選考会議を開催し、男性3名、女性2名を選任した。コミュニティ会議の推薦者については、先般の交流発表会の終了後に代表者会議を開催し、中山道浦和宿二七の市実行委員会から渡辺様、コミュニティキャンパス浦和から岡田様(以上再任)、アシスト浦和21から阿久津様、さいたま市観光ボランティア・浦和ガイド会から千阪様、岸町小学校地区サタデーサポートを推進する会から池田様(以上新任)の5名となった(男性4名、女性1名)。各種団体からの推薦委員は、15団体のうち9団体から推薦をいただいている。うち、丸山様と吉野様が再任である。現在までに19人の委員が決定しており、男性13名、女性6名、再任は4名となっている。
- ・区政方針を現在、区総務課で作成中である。浦和区では第1期の区民会議とともに策定した「浦和区魅力あるまちづくり推進プラン」をもとに、区政方針を整理する予定である。まとも次第、委員各位にお送りする。
- ・第14,15回区民会議議事録(案)を配布したので、修正等があれば、今月中をめどに事務局までご連絡いただきたい。第16回議事録については後日、郵送するので協力いただきたい。

□あいさつ□

会議の終了にあたって、会長、区長からのあいさつがあり、その後、茶話会を持ち解散した。

(会長より)

- ・区民会議の立ち上げ当初から関わってきたが、本日、最後の全体会を迎えることとなった。委員の皆様には平日の夜や土日など、家庭に支障のある時間にも関わらず熱心に協力いただき、まことに頭の下がる思いだ。今期が二期目の委員は私を含め退任となるが、つねに出席率は90%以上という皆さんの真摯な活動により、区民会議がここまで育ち、これから2期目につながる方にいい形でバトンタッチできるので安堵している。また、区が協働と

してやってきてくださったことに深く感謝している。区民会議委員としては退任であるが、今後とも、区政に感ずるところがあれば、意見を申し上げていきたい。皆さんのご健勝とご活躍をお祈りして、あいさつとしたい。

(区長より)

- ・第2期委員として、浦和区の魅力あるまちづくりにご協力くださりまして、ありがとうございました。今期は延べ38回の会議を重ね、幅広く、また、主体的にまちづくりの課題の検討、提案に取り組んでいただいた。区民会議は、区民と区の協働のステージであり、今後とも、「賑わいと文教の調和する緑豊かなまち 浦和区」の実現に向けた取り組みを協働により進めてまいりたい。また、退任を迎える委員の皆様におかれましても、引き続きコミュニティ会議や団体の一員、あるいは個人として、浦和区のまちづくりにご協力をいただければと願っている。皆様のご健勝とご活躍を祈念して、あいさつとしたい。

以上